胃腸科・外科・内科・肛門科
ふれあい曽山医院
http://www.h6.dion.ne.jp/~soyama
志筑1391－9
Tel:62-5566
2011年1月号
（第70号）
発行人
曽山　信彦

編集委員会

藤島　敦子
棟近　成氏
西岡　博子
赤松　陽子
伊藤　彩香
谷岡　尚子

胃瘻（いろう）～経管栄養

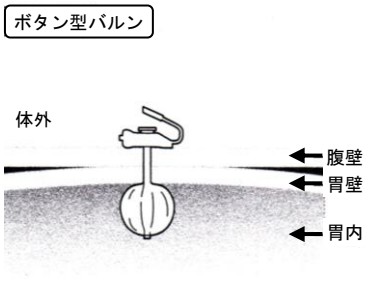
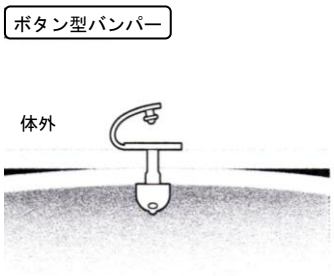
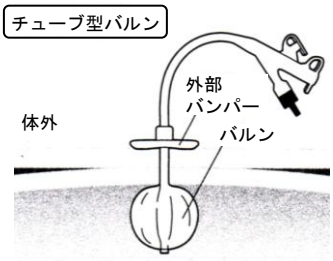
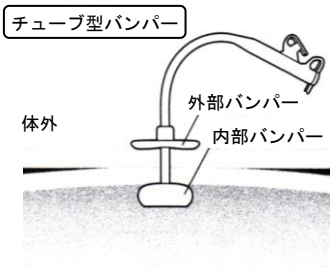
『胃瘻』という言葉をご存知でしょうか。『胃』は内臓の胃を、『瘻』は穴が開いた状態を意味します。「胃に穴があいたら大変！」と驚かないでください。これは胃腸の機能は正常であっても、何らかの事情で口から食事が摂れなくなった方のために点滴ではなく、胃に開けた穴から栄養を摂っていただく治療法の一つなのです。

チューブを使って栄養剤を胃に入れる方法を「経管栄養法」といいます。以前は鼻からチューブを胃や腸に挿入して栄養剤を注入していましたが、最近では胃から腹壁（おなかの皮膚）に穴をあけ、専用の器具を付け、チューブをつなぐ「胃瘻」の造設が急速に広まってきました。「胃瘻」をつくる事で、鼻にチューブが入っている不快感や苦痛を解消し、口から食べる練習を行いやすくします。

「胃瘻」をつくるのに適応する方は、①脳血管や神経の障害などで飲み込むことが上手く出来ず、誤嚥性の肺炎をくりかえす方、②消化管の炎症や悪性腫瘍などで部分的に喉の通りが悪くなっている方、などです。また療養者の病状が安定している、家族や介護者の協力で経管栄養の管理が出来る、といった条件も必要です。

胃瘻をつくる方法は、内視鏡（胃カメラ）を使って胃の中から位置をきめて穴を開けます。開けた穴に専用の器具「カテーテル」を装着します。カテーテルの種類は胃内の固定方法で、バルン型とバンパー型の２種類があり、それぞれに皮膚側で固定するボタン型とチューブ型の２種類と合計４種類があります。種類によって管理の方法が違うので注意が必要です。穴を開けてから３～４週間で穴は完成します。

注入する栄養剤にも①保険適用となる「成分栄養剤」（エンシュアリキッドやエレンタールなど医師の処方箋が必要）②食品扱いとなる栄養剤（「液状栄養剤」アイソカルやテルミールなど）（「半固形栄養剤」カームソリッドやテルミールＰＧソフトなど）③ミキサー食など手作りの食品、とたくさんの選択肢があります。なかでも「半固形栄養剤」は短時間で摂取できるので長い時間座っている必要がなく、療養者の負担が少ない、逆流しにくいので誤嚥性肺炎を起こしにくい、下痢をしにくいといった利点があり注目されていますが、栄養剤に粘度があり、注入するのに介護者の労力が必要になる、保険が使えない（費用がかかる）などの問題点があり改善が求められています。

胃瘻をつくることでお食事を摂る事が困難になっても、住み慣れた自宅で家族と一緒に療養生活を送りたいといった療養者のかたの希望をかなえる事ができるようになりました。安心して療養生活を送っていただけるよう、訪問看護でサポートさせていただきますのでお気軽にご相談ください。

（看護師　遠松美智子）